

## 人と防災未来センター災害対策専門研修（秋期）実施結果

平成 17 年 10 月 11 日（火）から 11 月 17 日（木）の間に実施した「災害対策専門研修（秋期）」について、下記のとおり実施結果を取りまとめた。

### 1 コース別受講者数

マネジメント コース A	第 1 ユニット	11 月 8 日（火）～11 月 11 日（金）	21 人
	第 2 ユニット	11 月 14 日（月）～11 月 17 日（木）	23 人
マネジメント コース B	第 1 ユニット	10 月 11 日（火）～10 月 14 日（金）	25 人
	第 2 ユニット	10 月 17 日（月）～10 月 21 日（金）	22 人
	第 3 ユニット	10 月 24 日（月）～10 月 27 日（木）	25 人
合計（のべ）			116 人

各コース全ユニット受講者 Aコース：8人 Bコース：3人  
定員は各ユニット 20 人

### 2 受講者の所属

	府県	市町	政府 機関	ライフ ライン	その他	総計
兵庫県	3	17	6			26
近畿（兵庫県除）	7	21				28
東北地方		1				1
関東地方	3	3	1	1		8
中部地方	9	14	1			24
中国・四国地方	20	3	1			24
九州地方		5				5
総計	42	64	9	1		116
団体数	12	41	4	1		58

近畿地方、中部地方、中国・四国地方を中心に北は宮城県から南は福岡県まで全国各地から参加があった。また、府県職員、市町職員を中心として、国職員、ライフライン関係機関職員など幅広い団体から参加があった。

### 3 評価と課題

- ・研修に対する満足度の評価点数（100点満点）の平均は、88.6点であり、非常に高い評価を得た。
- ・特に、阪神・淡路大震災時の経験者（行政、学者、市民、民間企業、ボランティア、弁護士）や、河田センター長をはじめとする幅広い情報を有する講師の講義が高い評価を得た。
- ・また、演習形式の研修（特に記者会見シミュレーション、災害対応ゲーム）やフィールドワークも好評であった。
- ・専任研究員（週担当）が講義前に「講義の意味・意義」の説明をしたことや、講義後のフォローアップについて評価する声があった。
- ・Aコース受講者からは、「研修トータルで今後の職務に役立ち、防災に関して能力を高めることができた」「神戸からの発信としてよく整理され、地方のものにとってありがたい内容であった」という意見があった。
- ・Bコース受講者からは、「基礎的なところから専門的なところまで広く防災に関わる講義であり大変有意義であった」「防災について色々な角度から見る必要があると考えさせられた」という意見があった。
- ・受講者同士の交流が図れた点についても、概ね好意的に捉えられており、今後こうした横のつながりを活用したいという声もあった。
- ・一方、「講義時間・意見交換時間が不足している」「ワークショップを増やして欲しい」「実際に災害対応にあたった自治体職員の生の声が聞きたい」といった指摘があった。

### 4 今後の対応

当研修は、センターが開設した平成14年度以降、受講者ニーズを常に把握・反映しながら、これまでに延べ823人が受講し、常に高い評価をいただいていた。また、国の中央防災会議等においても、防災関係者の資質の向上を図る研修として位置付けられており、当研修の方向性等は概ね妥当であると考えられる。しかし、開始後3年を経過したいま、研修内容をより一層、効率の高い研修とするため、これまでの受講者の評価やニーズや社会的な要請を十分にふまえた上で、次年度のカリキュラムについて現在検討を進めている。

（参考・別添）秋期コース・カリキュラム

# Aコース第1ユニット 災害時のマネージメント能力の向上

担当：専任研究員 平山修久

	11月7日(月)	11月8日(火)	11月9日(水)	11月10日(木)	11月11日(金)
10:00-11:30 1限		<b>開講式(9:45? 10:00)</b>  <b>オリエンテーション</b> 平山修久 専任研究員	<b>初動期:国の対応</b> 杉山利行 陸上自衛隊中部方面 總監部防衛課長一等陸佐 ・災害発生からの行動原理と自治体との関係について	<b>行政危機対応のトピック マスコミ</b> 桃田武司 神戸新聞社経済部長 ・災害時のマスコミの行動原理と行政体制への見方について	<b>討論会</b> 平山修久 専任研究員 ・災害初動期に必要なとされる知識とは ・発表会及び全体討議
12:45-14:15 2限		<b>危機管理特論</b> 河田恵昭 人と防災未来センター長 ・自然災害、人為災害を問わず現在懸念される各種リスクについての問題提起	<b>センター展示施設見学</b> 平山修久 専任研究員 ・阪神・淡路大震災の被害状況や発生した事象について、研究員の説明を交えて見学する	<b>応急対応論 (3日から1週間)</b> 室崎益輝 上級研究員 ・自治体の応急対応期の対応のあり方について	<b>行政危機対応のトピック 指定公共機関</b> 木戸洋二 阪神電気鉄道(株) 部長 ・ライフライン企業のトップから見た災害対応の現場とその教訓について
14:30-16:00 3限		<b>初動対応論 (直後から3日まで)</b> 山本保博 上級研究員 ・災害現場の救急医療の状況と行政との関係について	<b>初動対応論 (直後から3日まで)</b> 秦康範 独立行政法人防災科学技術研究所研究員 中地弘幸 総務省消防庁応急対策室航空専門官 参事官補佐 ・直後における災害情報マネージメントと航空応援のあり方について	<b>復旧復興論 (1週間～3ヶ月)</b> 中林一樹 上級研究員 ・都市復旧、都市復興に関する計画について	<b>初動期:国の対応</b> 中辻剛 内閣官房副長官補(安全保障・危機管理担当) 付内閣事務官 ・大規模災害時の国の対応方法と行動原理について
16:30-18:00 4限		<b>危機管理特論</b> 遠藤勝裕 日本証券代行株式会社取締役社長(当時日銀神戸支店長) ・自治体以外のトップの立場から見た災害対応の現場とその教訓について	<b>討論会</b> 平山修久 専任研究員 ・災害初動期に必要なとされる知識とは ・グループ討議	<b>危機管理特論</b> 貝原俊民 前兵庫県知事 ・震災経験を踏まえた自治体防災政策のあるべき姿について	<b>(16:15～17:45)</b> <b>行政危機対応のトピック ライフライン</b> 小倉晋 阪神水道企業団副企業長 ・震災時のライフライン事業体の災害対応とその教訓について  <b>(17:55～18:15)</b> <b>閉講式</b>

# Aコース第2ユニット リスク軽減手法と防災政策

担当：専任研究員 永松伸吾

	11月14日(月)	11月15日(火)	11月16日(水)	11月17日(木)	11月18日(金)
10:00～11:30 1限	開講式・オリエンテーション 永松伸吾 専任研究員	阪神・淡路大震災でのトップの対応 北村春江 前芦屋市長 ・阪神・淡路大震災時の対応におけるトップの対応とその課題と教訓	防災政策総論 河田恵昭 人と防災未来センター長 ・東南海・南海地震を見据えた長期的な視点に立った防災政策のあり方	(9:15～10:45) 防災と環境政策論 植田和弘 上級研究員 ・環境政策とは ・防災政策との類似性	
12:45～14:15 2限	危機管理総論 林春男 上級研究員 ・わが国の危機管理の問題点 ・組織における危機管理能力向上のための方策	シナリオ型被害想定のご概念(防災計画) 吉井博明 東京経済大学教授 ・シナリオ型被害想定のご考え方や地域防災計画と被害想定	災害と損害保険の役割 鈴木文明 日本損害保険協会業務企画部地震・火災 新種グループリーダー ・自然災害からの立ち直りに欠かせない火災保険、地震保険の役割と公共性	(11:15～17:00) 意思決定能力向上のための手法展開 齋藤富雄 兵庫県副知事 山中茂樹 関西学院大学教授 安富信 研究調査員 読売新聞地方部次長 ・大規模災害発生時の限られた時間と情報の下で、災害対応責任者としての役割 ・危機状況に備えて、記者会見シミュレーションの実施	
14:30～16:00 3限	防災未来館 見学ワークショップ 永松伸吾 専任研究員 ・展示の見学と解説、資料室見学 ・今後の地震対策を考えるワークショップ	耐震改修促進へ向けた政策課題 永松伸吾 専任研究員 (コメンテーター) 吉井博明 東京経済大学教授 (ゲスト) 柳敏幸 静岡県建築安全推進室主幹 青木史郎 横浜市住宅計画課担当課長 高橋一雄 神戸市都市計画総局住宅部住宅政策課主幹 ・耐震補強を推進するための取り組みや課題について学ぶ	企業防災論 永松伸吾 専任研究員 ・災害時の民間企業の活動とその問題点ならびにBCPについて	(17:10～17:30) 閉講式	
16:30～18:00 4限			意思決定能力向上のための手法展開 永松伸吾 翌日の準備 作戦会議		

# Bコース第1ユニット 自然災害の現象理解と防災基礎

担当： 専任研究員 原田賢治

	10月10日(月)	10月11日(火)	10月12日(水)	10月13日(木)	10月14日(金)
10:00 ~ 11:30 1限		<b>開講式 (9:45 ~ 10:00)</b>  <b>防災論基礎</b> 林春男 上級研究員 ・ 社会の防災力向上のために必要な考え方と実務上の捉え方	<b>土砂災害の事例と対策</b> 沖村孝 上級研究員 ・ 土砂災害の事例と砂防対策事業	<b>災害情報システム特論</b> 松岡昌志 地震防災フロンティア研究センター チームリーダー ・ 地震被害の軽減、発災後の対応のための防災情報技術	<b>地震発生メカニズム</b> 加藤照之 東京大学地震研究所教授 ・ プレート境界型大地震を主とした地震発生メカニズムに関する基礎的知識
12:45 ~ 14:15 2限		<b>オリエンテーション</b> 原田賢治 専任研究員	<b>地球温暖化と災害</b> 横木裕宗 茨城大学助教授 ・ 地球温暖化が災害に与える影響と、想定される新しい災害形態	(12:30 ~ 14:00) <b>センター展示施設見学</b> 原田賢治 専任研究員 ・ 語り部ボランティア (元行政職員) による震災時の対応状況及び展示の解説	<b>地震による建物被害とその軽減策について</b> 堀江啓 地震防災フロンティア研究センター研究員 ・ 地震による被害発生メカニズムとその軽減策
14:30 ~ 16:00 3限		<b>風水害の発生メカニズムとその対応</b> 中川一 京都大学防災研究所教授 ・ 風水害の発生メカニズムとその対応	<b>都市巨大災害論</b> 河田恵昭 人と防災未来センター長 ・ 都市巨大災害の変遷とこれからの都市防災、危機管理	<b>災害対策関連法・制度基礎</b> 山本徳治 内閣府政策統括官 (防災担当) 付参事官 (総括担当) ・ 災害対策の法的な枠組みと実務	(14:25 ~ 14:45) <b>閉講式</b>
16:30 ~ 18:00 4限		<b>日本の災害史</b> 伊藤和明 防災情報機構NPO法人会長 ・ 日本の災害、被害の事例の歴史の変遷	<b>津波防災基礎論</b> 越村俊一 東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター助教授 ・ 我が国における津波防災の現状と今後の方向性	<b>災害の予測と情報公開</b> 中野泰雄 国土交通省河川局砂防部砂防計画課長 ・ 災害情報の開示とその活用法	

# Bコース第2ユニット 災害対応と復旧・復興の課題

担当：専任研究員 福留邦洋

	10月17日(月)	10月18日(火)	10月19日(水)	10月20日(木)	10月21日(金)
10:00~11:30 1限	(10:00~11:20) 開講式・オリエンテーション 福留邦洋 専任研究員	<b>初動期特定課題 市街地火災</b> 関沢愛 東京大学大学院教授(消防 研究所上席研究官) ・市街地火災の実態と対 応課題等	<b>都市復興</b> 中林一樹 上級研究員 松谷春敏 国土交通省 街路課長 ・阪神・淡路大震災にお ける復旧・復興過程の都 市計画(実務者との対談 形式)	<b>初動期特定課題 ライ フライン</b> 秦康範 独立行政法人防 災科学研究所研究員 ・被害把握と復旧課題	<b>被災自治体の災害対策</b> 長手務 神戸市理事・危機管理監 ・阪神・淡路大震災の経 験と教訓を踏まえた取り 組みと現在の防災体制に ついて
11:45~14:15 2限	(11:30-12:30) <b>被災自治体の災害対策</b> 東田雅俊 兵庫県防災監 ・阪神・淡路大震災の経 験と教訓を踏まえた取り 組みと現在の防災体制に ついて	<b>被災者支援 共助のし くみ</b> 立木茂雄 上級研究員 山本康史 ハロ-ボランティア・ ネットワークみえ代表 平野昌 ハロ-ボランティア・ ネットワークみえ事務局(三重 県地域振興部東紀州活性 化・地域振興プロジェクトグル ープ主幹) ・災害時におけるボラン ティア活動支援(ボラン ティアコーディネーター等)	(12:30~14:00) <b>都市復興</b> 中林一樹 上級研究員 ・発災から復旧・復興過 程の都市計画	<b>国の災害対策</b> 松井康治 内閣府政策統括官(防災担 当)付参事官補佐(災害復 旧・復興担当) ・被災者生活再建支援法 と被害認定について	(11:40~12:00) 閉講式
14:30~16:00 3限	(13:45~18:00) <b>災害対応能力の向上 ワークショップ 発表会</b> 矢守克也 震災資料研究主幹 京都大学防災研究所 助教授 福留邦洋 専任研究員 ・災害ゲーム、グループ 討議を行うワークショッ プ		(14:00~18:00) <b>都市復興</b> 小林郁雄 上級研究員 ・地域産業・くらしの復 興についての巡検 ・しごと、くらし、いき がいを守るためには ・地域産業に内在する災 害脆弱性とは ・防災ができること などを現地で学習、意見 交換を行う	<b>国の災害対策</b> 家田康典 厚生労働省社会・援護局総 務課災害救助・救援対策室 災害救助専門官 ・災害救助法の概要と応 急救助への考え方、取り 組み	
16:30~18:00 4限		<b>被災者支援 救急・救命</b> 山本保博 上級研究員 ・災害医療のしくみと行 政担当者の留意点		<b>国の災害対策</b> 藤田和久 総務省消防庁防災課震災 対策専門官 ・初動対応としての役割と 危機管理体制への取り組 み	

# Bコース第3ユニット 防災・減災の視点と手法

担当：専任研究員 照本 清峰

	10月24日(月)	10月25日(火)	10月26日(水)	10月27日(木)	10月28日(金)
10:00～11:30 1限	<p>(9:45～10:00) 閉講式</p> <p><b>応急対応論</b> 室崎益輝 上級研究員 ・自治体の応急対応期の対応のあり方について</p>	<p><b>危機管理の実践的取り組み</b> 上田一嘉 西宮市土木局土木総括室 防災対策課係長 ・防災先進自治体の取り組みの中で阪神・淡路大震災の教訓がどう活かされているか</p>	<p><b>実践的防災訓練</b> 近藤聡 静岡県防災局防災情報室 専門監 ・実践で役に立つ訓練とは。どのような考え方に基づいて企画・運営をしているのかについて</p>	<p><b>自治体の災害対応</b> 吉井博明 東京経済大学教授 ・新潟県中越地震、その他災害時の自治体の対応課題について</p>	
12:45～14:15 2限	<p>(12:30～13:20) <b>オリエンテーション</b> 照本清峰 専任研究員</p> <p>(13:30～16:30) <b>センター展示施設見学ワークショップ</b> 照本清峰 専任研究員 ・展示施設を用いたワークショップ ・阪神・淡路大震災から何を学ぶか ・市民の視点から行政は何を行うべきか</p>	<p><b>資源動員体制</b> 五辻 活 首都圏コープ事業連合・災害対策専門員 ・民間業者の地震対策事例を題材に、行政と民間の連携と課題</p>	<p><b>企業と地域防災</b> 青木栄治 内閣府政策統括官(防災担当) 副企画官 ・企業に求められる防災体制、地域の災害対策における企業防災の位置づけについて</p>	<p><b>防災情報論</b> 市川啓一 株式会社ニュー・ドット・ネット代表取締役 ・産官学民の円滑な連携と災害救援活動に必要な情報の収集と発信</p>	
14:30～16:00 3限		<p><b>市民と防災：被災地に学ぶ防災地域づくり</b> 神戸まちづくり研究所 ・震災後の地域防災施策と現在の状況 ・生活者の視点から見た防災施策の問題点の把握と今後の施策立案について、現地視察を通して学習</p>	<p><b>専門職能と被災者支援</b> 阪神・淡路まちづくり支援機構 佐藤敏充 税理士 前田哲也 土地家屋調査士 津久井進 弁護士 西野百合子 弁護士  被災地において専門家(法律・税務、建築・法律)の果たした役割について</p>	<p>(14:25～14:45) 閉講式</p>	
16:30～18:00 4限	<p>(16:45～18:30) <b>ワークショップ発表会</b> 田中保三 まち・コミュニケーション顧問 松原浩二 兵庫県防災計画課長 神戸市危機管理室主査 中野 靖 ・阪神・淡路大震災の経験と教訓をどう解釈するか</p>				